

文化情報誌

たわわ

2025 No.124

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



こころをマレットにのせて

いいなともき マリンバ奏者・俳優 椎名友樹さん

平塚市在住のマリンバ奏者椎名友樹さんに、生い立ちやマリンバの魅力などについてお話を伺いました。

●音楽の原点について教えてください。

私の原点は、西城秀樹さんの音楽です。母が西城秀樹さんのレコードをたくさん持っていたので、幼少期から毎日そのレコードを聴くようになり、西城さんのビート感あふれる音楽や、時にストーリーが浮かぶ心の底からの絶叫、また囁やくような優しい歌など、とても幅広く深い世界観に心を奪われていました。そして西城さんの世界に憧れ、小学校の休み時間には「西城友樹」と書いたタスキと鉢巻きをして、「西城友樹ショー」を毎日のように行っていました。

小学5年生の時に音楽クラブへ入ると、トランペットを始めました。将来はトランペッターになると決めたのですが、中学校のブラスバンド部では、小学校の音楽クラブにはなかった金管・木管楽器の大人の響きに惹かれ、特にティンパニなどの打楽器の響きに大きく心を動かされ、打楽器も演奏したいと思うようになりました。そこで部活ではトランペットを続けつつ、学外では小中学生の市民吹奏楽団に入団し、打楽器を始めました。

高校2年生になって、音楽大学へ進むため悩んだ末にトランペットを専門とすることに決めました。打楽器を辞めたのです。しかし、トランペットを吹いている時には打楽器が気になるのに、打楽器を演奏している時はそれに集中している自分に気づき、自分が本当に好きな楽器は打楽器だと思い知らされました。そこで7年間続けたトランペットを辞め、打楽器の道に進むことにしました。

●そこからマリンバに夢中になったのはどうしてですか？

大学の打楽器科へ進むには、小太鼓かマリンバ受験の2択でした。自分はメロディを弾けるマリンバが良いかなと安易に選択しました。この時はティンパニストになりたいと思っていたので、マリンバは単に受験科目と割り切っていました。しかし、大学でマリンバの先生のレッスンを初めて受けた時に、マリンバの素晴らしさに衝撃を受け、一気にマリンバの魅力に引き込まれました。鋭い響きから深く温かい音色まで出せるマリンバの世界の虜になってしまい、マリンバを専門にしようと心に決めました。



自宅にある多数のマレット

マリンバはさまざまなマレットを使い分けることにより音色が変わり、「マリンバ×マレット×奏者」で無限の広がりを感じられるところも魅力です。このマリンバで喜怒哀楽や情景を描き、聴衆へ深く届くように追及しています。

子供の頃、湘南平で虫や木などの自然に触れていたのが、マリンバの「木の音色」も心地よく感じます。大ホールで照明を浴びて演奏するステージももちろん好きですが、お客さんと交流しながら近い距離で演奏するような会場にもまた別の魅力があると思っています。身近に心地よい音を届けたいと思うのは、自分の中にある「自然志向」なのかもしれません。



演奏時の椎名さん

●音楽だけでなく役者や司会もするとお聞きしました!?

子供の頃から「～ごっこ」など、何かになりきる遊びに夢中でクラス発表会の劇や国語の朗読などにもものすごくのめり込むタイプでした。きっと、音楽家になりたいという気持ちとは別に、役者になりたいという思いが潜在意識にあったのだと思います。23歳で音楽事務所に入りましたが、下北沢の劇場で観劇していたら、音楽家の方が役を演じているのを見かけました。音楽と演劇の両立なんてとても無茶なことだと思っていたので「え！音楽家でも演劇に出演できるの!？」と衝撃を受けました。その劇団が「役者募集」をしていることを知り、何の準備もしないで、いきなりオーディションを受験。音楽畑の自分にはひとりでポソソと場違い感がたっぷりでしたので、やはり無謀だったかと諦めていたら、まさかの「合格」で出演が決まりました。慌てて役者の勉強会に参加しましたが、ほぼ現場で学ぶような状態で苦労しました。しかし、一度その世界に入ったならば手放してなるものかと「次もぜひ出演させて欲しい」と劇団のトップにアピールして困らせたりしました。



役者として舞台出演時

その後しばらくは音楽家の自分、役者の自分、どちらもなんとかせねばと必死でしたが、経験を重ねて行くうちに、だんだん音楽と役者は、楽譜か脚本かの違い、音かセリフかの違いはあっても表現の共通点がたくさんあることに気づき、お互いに良い影響がでてきました。今でも、音楽と役者の世界の違いに苦しむ部分もありますが、音楽・役者・朗読・司会と、どれでもステージに立って発信する点は同じなんだと前向きにとらえています。

●今後のアーティスト活動をどのように思い描いていますか？

平塚では青春時代を過ごしていたので、市内のあちこちに「思い出」が染み込んでいます。その地元で演奏できることに喜びを感じています。



野外コンサート

また年齢も重ねてきて、これからは「求められるもの」に添っていきたいと考えるようになりました。その一つ一つに真摯に向き合い、深く掘り下げて表現していくことを追求していきたいです。幅広くみなさんに良いと思っていただく方にも大切ですが、個性的なこの自分を良いと思ってくださる方に、より深く共感していただけるように努力しようと考えています。そして、みなさんにとって身近な存在の「お近くのアーティスト」「隣の音楽家」になれたらと思います。そういった想いで、いつか平塚の自然の中で演奏することができたなら『幸せ』だなとワクワクしています。

【プロフィール】椎名友樹

平塚市在住。Projeto musical SORRIR 代表。
洗足学園大学(現:洗足学園音楽大学)音楽学部 器楽学科 打楽器専攻を経て、いくつかのアンサンブルグループを結成し、各地で精力的な演奏活動を展開。2009年音楽事務所Projeto musical SORRIR(プロジェクト ムジカルソール)を設立。2015年からは役者としての活動も始める。軽妙なトークや親しみやすいキャラクターでそのステージングには定評がある。YouTubeの神奈川県平塚市役所文化芸術チャンネルにも出演。2022年3月のひらしん平塚文化芸術ホールオープニングイベント、直近では平塚市美術館やリトアニアウィークミニコンサートでマリンバの音色を届けている。



巡って学ぶ平塚学入門 ⑫

「商店街の星座絵タイル」

夏には七夕会場となる平塚駅周辺の舗道で、星座絵の陶板タイルをご覧になったことはありませんか？

これは昭和60(1985)年の紅谷パールロードを皮切りに、数年にわたって行われた商店街モール化事業によって設置されたものです。



これも星座！織女星のここと座と牽牛星のわし座
(まちかど広場の交差点付近)



これも星座！みなみのうお座
(北口ロータリー東側付近)

ただの路面装飾と侮ってはいけません。この星座絵たち、配置を確認すると、北の星は北の区域、東に見える星座は東の街路、という具合に、七夕の頃の星空に見事合致した配列になっています。それは、歩きながら夏～秋の星空散歩が味わえる仕掛けなのです。

踏破して初めてわかる(いえ、それでも気づかない)超こだわりの配置…。祭りなどの雑踏では探すのが難しいので、ぜひ今の季節に探索してみてください。

当初は24星座がありましたが、40年を経た今でも22星座が残っています。中にはこれが星座とは名探偵でも気づかないような難解星座も。



これも星座！さんかく座
(大門通り)



これも星座！てんびん座
(平塚駅西口付近)

担当課、そして事業者のみなさんの「粋」と「情熱」を足元に感じてみましょう。

他にも、不可解な絵が、車止めのポールに映った像では歪みのない花火や七夕の絵になる「さや絵」など、遊び心に満ちた(過剰な?)仕掛けが隠された街路。昭和末、七夕を糧に街の繁栄を企図した商店街や市の

(平塚市博物館学芸員)

ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポート Vol.6

ひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、さまざまなジャンルの事業の様子をお届けする主催事業レポート。今回は、「THE PLAYシリーズ」から、令和6年10月3日に開催した「風間杜夫ひとり芝居」をご紹介します。

このシリーズでは、演劇やパフォーマンスなどの名作や話題作など良質な舞台作品をお楽しみいただいています。これまでに「ナニコレ!? 白A テクノサーカス」や「柄本明ひとり芝居『煙草の害について』」を上演し、子どもから大人まで多くの方に舞台芸術をお楽しみいただいています。

今回は、1997年から始まった名優風間杜夫さんのひとり芝居「牛山明シリーズ」の最新作「カラオケマン ミッション・インポッシブル～牛山明、バンコクに死す～」を開催しました。

風間さん演じる陽気で明るく、ちょっとお調子者

の歌う司会者牛山明。タイのバンコクで失踪した部下の救出というミッションに挑むストーリーで、度々起こるアクシデントに振り回される牛山明の姿とコミカルな動きに、大ホールは笑い声に包まれました。また、カラオケで歌うシーンは、歌手としても活躍する風間さんの美声に、観客の皆さんも聞きほれていました。一人で演じていることを感じさせない名優の演技力と迫力に、最後まで観客の皆さんも魅了され、終演後のカーテンコールでは大きな拍手が起こりました。

終演後のアンケートでも、「ひとり芝居は初めて見ましたが、とても楽しかったです。」「風間さんのパワーに圧倒されました。」といった声があがるなど大好評でした。今後もこのシリーズでは、さまざまなジャンルの舞台作品をお届けしますので楽しみにしてください。



リトアニアに行く前に… 「平塚市図書館で見つけたリトアニアの絵本」

平塚市は2023年11月25日にカウナス市と姉妹都市提携を結び、姉妹都市となりました。今回はカウナス市出身のジュギーテ・サウレさん（平塚市国際交流員）が「平塚市図書館で見つけたリトアニアの絵本」について紹介します。

本を通じて遠く離れている国の文化に触れ、その世界について知ることができます。

平塚市図書館ではリトアニアの作家による作品を数多く所蔵しており、今回紹介するのは有名な絵本です。寝る前に本を読んでもらうことが大好きなリトアニアの子どもたちに欠かせない絵本で、リトアニア文化の一端を覗いてみてはいかかでしょうか？



『カケ・マケちゃんとかたづけエルフ』

作家・イラストレーターのリナ・ジュタウテ氏の大ヒット『カケ・マケちゃん』シリーズは、世界13ヶ国で翻訳されています。ヒロインのカケ・マケちゃんは部屋を片付けなかったせいで、かたづけ魔エルフにおもちゃを取り上げられてしまい、おもちゃを取り戻すために、エルフのところに向かいます…大人も子どもも色鮮やかなイラストでいろいろな想像が掻き立てられます！

【作・絵：リナ・ジュタウテ 文：正岡慧子 編集協力：瀬戸はるか
出版社：世界文化社】 ※中央・西図書館 所蔵

『ちいさなちいさな みんなとあそぶリトアニアのしのえほん』

リトアニアの子どもたちが良く知っている作家マリウス・マルツィンケヴィチウス氏の詩集です。2020年にリトアニアで「最も美しい本」最優秀賞を受賞。12の陽気なリズムの詩と北欧らしさ溢れるイラストで不思議な世界に連れていってくれます。

【詩：マリウス・マルツィンケヴィチウス 絵：ラサ・ヤンチャウスカイト
訳：木村文 出版社：銀の鈴社】 ※中央・北・西・南図書館 所蔵



『カケ・マケちゃんとかたづけエルフ』

歯みがきを嫌がるカケ・マケちゃんは歯を磨いていないために「歯のようせいパーティー」に参加できません。どうしても参加したいと危険な冒険に一步踏み出すことに…カケ・マケちゃんが歯みがきの大切さに気づいたわけは？！

【作・絵：リナ・ジュタウテ 文：正岡慧子 編集協力：瀬戸はるか
出版社：世界文化社】 ※中央図書館 所蔵

難しい専門書もいいですが、まずは親しみやすい絵本を図書館で手に取り、リトアニアの文化に触れてみませんか？リトアニアを少しでも知って出かければ、きっと素敵な思い出を刻むことができます。ぜひ市内各図書館をご覧ください。

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

平塚市文化振興基金にご寄付くださった方々

【令和6年(2024年)10月1日から令和7年(2025年)1月31日まで】

- 令和6年(2024年)12月12日 竹遊会
- 令和7年(2025年)1月20日 社会福祉法人 進和学園
しんわ本人自治会連合会 ※敬称略

発行 平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町9-1

電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756 E-mail: bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和7年(2025年)2月15日発行 右の2次元コードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます

